



フェンスで囲まれた難民キャンプ



The Republic of South Sudan

ピースウィンズ・ジャパン現地レポート

祖国を離れて一隣国ケニアで暮らす南スーダン難民たち

アシスト南スーダン!

今、世界でもっとも多くの国内避難民・難民を抱える南スーダン。その現状が日本に伝えられる機会は少なく、知るすべも限られている。未知の国・南スーダンで何が起り、今どうなっているのか? タウトク編集部では、NGOピースウィンズ・ジャパンの協力により、その現実の姿を伝えていきます。支援活動が続ける同スタッフの奮闘のレポートを紹介しつつ、南スーダンが抱える問題を少しずつひもとき、少しでも身近な出来事だと感じられるようにしたい。

株式会社メディコムでは、読者の皆さんにタウトクを1冊(350円)購入いただくにあたり、その約1%である3円を、南スーダンをはじめアフリカの復興支援のために送金します。

「支援している」という高みに立った目線ではなく、積極的に関わり合いをもつことで現地の様子が気になるようになり、やがて世界で起っているいろんな紛争や悲劇と、自分たちは決して無縁ではないことを肌で感じるための「3円」だと思っています。ぜひこの1%運動をご理解いただき、本誌連載にご注目ください。

PWJの携帯サイトはこちら!



世界各地で支援活動が続けるスタッフからの「現地活動レポート」、最新のNEWSなどの情報が携帯からチェックできるようになりました! 左のQRコードからアクセスしてみてください! <http://www.peace-winds.org/m/>

タウトクでは毎月、南スーダンの国内避難民・難民支援事業へ送金した金額=タウトクの販売部数×3円を読者のみなさんにお知らせします。

タウトク7月号の販売部数  
■■部×3円=■■円

を支援金としてPWJを通じ南スーダンの国内避難民・難民支援事業に送りました。

peace winds JAPAN

タウトク medicomm inc

株式会社メディコム 月刊タウン情報トクシマ編集部

今月は、南スーダンと国境を接するケニアで難民として暮らしている南スーダンの人々の話をお届けします。

ケニアと言えば、皆さんどのようなイメージをお持ちでしょうか。サファリに代表されるような動物たちの楽園、日本でもおなじみのマサイ族のいる国、そして多くの有名選手を輩出しているマラソン強豪国、といったイメージがあるかと思いますが、実はケニアは近隣諸国から50万人近くの難民を受け入れている難民受け入れ大国でもあるのです。

ピースウィンズ・ジャパン(PWJ)は、隣国ソマリアからの難民支援の拠点として1991年にケニアに設置された世界最大規模の難民キャンプ、ダダブ難民キャンプにおいて、2012年からシェルター(簡易住宅)建設事業を行っています。ダダブ難民キャンプには、2014年6月末時点で35万人以上の難民が暮らしており、その内の約95%はソマリア国籍ですが、南スーダンからの難民約1,100人もこのキャンプ内の一角で生活しています。彼らの多くは1992年頃にこのキャンプに住み始めた難民ですが、今年の1月以降、昨年12月に勃発した南スーダンの内紛を逃れ、南スーダンとケニアとの国境から約700キロ以上も離れたこのキャンプに辿り着く人たちが少しずつ増えています。

PWJがダダブ難民キャンプで提供しているシェルター1戸の広さは、約19平米(11畳程度)で、ケニア政府と難民キャンプ管理委員会の合意を得た設計のものですが、室内に台所やトイレ、シャワーなどはありません。PWJが訪問したとあるシェルターでは、一つ屋根の下に10代の男の子ばかり6人が雑魚寝状態。お隣のシェルターでは、最近ダダブに到着したばかりの女性4人と子ども達9人の合わせて13人が生活しているなど、ひとつのシェルターに多くの難民がひしめきあい、まだまだシェルターが足りない現状を痛感しました。

ダダブ難民キャンプで出会った南スーダン難民

は、子どもも大人も英語を話せる人が多いせいか、「Hello!」「How are you?」などと英語で気さくに声をかけてくれる点が印象的です。私たちが案内してくれた南スーダン難民居住区画のリーダーは、1992年に両親に連れられてダダブ難民キャンプに到着して以来ずっとこのキャンプで生活している28歳の独身男性。PWJのケニア人女性スタッフが彼に意外な質問をしました。「あなたたちはどうやって結婚相手を探すの?」彼は「それが結構大きな問題なんだ」と笑っていましたが、実は切実な問題であることが容易に読み取れました。キャンプに流れ着く難民は多くが家族単位。数少ない適齢期の独身女性は未亡人だったり子どもがいたりで、キャンプ内で理想の結婚相手を見つける事は簡単ではないのです。難民キャンプで家族を作り、一生キャンプで暮らす覚悟ができていいのか、それともいつかは南スーダンに帰りたいと思っているのか。難民たちの心模様は人それぞれで計り知れません。

南スーダンの内紛は勃発から半年以上が経過した今もまだ終息の兆しを見せず、こうしている間にも、ダダブをはじめとする近隣国の難民キャンプへ避難する南スーダン人の数は増え続けています。彼らが心に思い描く未来が、一刻も早い帰郷であれ、キャンプでの結婚や定住であれ、難民としてキャンプで暮らす間は、私たち人道支援機関の支えが不可欠です。PWJは今年中に南スーダン難民も含めた約2,000世帯分のシェルターを建設する予定です。地道ではありますが、難民たちの住環境を少しでも改善できるよう、今後も現地で活動に励んでいきます。

報告:谷本 明美(ケニア事業担当)



ダダブ難民キャンプを空から

\*本事業は、ジャパン・プラットフォームからの助成金や個人・法人のみなさまによる寄付金により実施しています。